

木器集成図録

図 版

凡 例

- 1 木器番号は5桁で表示する。前の3桁は図版番号、後の2桁はひとつの図版内における順序をあらわしている。
- 2 原図の表現にはかなり差があるが、製図に際して、可能な限り表現法を統一した。その際、割目・木目・腐蝕状態などは省略し、加工痕・使用痕を重視して、復元的に表示することをめざした。
- 3 平面図中に断面を示す場合、原則として、図示した面を横断面では上に向け、縦断面では右側に向けている。平面図の周囲に断面図を展開する場合は、通常の見開き図法による。
- 4 木取りは、断面図に年輪の方向を模式的に示した。ただし、断面図に年輪があらわれない場合や、木取りが未確認の場合の断面図は白ヌキである。
- 5 木器に赤漆（赤彩を含む）や黒漆をかけている場合、その範囲が推定できるものは、図中に赤網目・黒網目であらわした。ただし、痕跡程度のものは図では省略し、木器一覧表にその旨を明記した。
- 6 各図版にスケールを付しているが、各原図はコピー器機で縮尺を統一したため若干の誤差はまぬがれない。正確には、木器一覧表における法量覧を参照されたい。